

提供事例一覧（トークセッション）

No.	事例(テーマ)	内容	事例提供者
—	コロナ時代の新しい公民館のカタチ	<p>NPO法人地域サポートわかさは、那覇市若狭公民館エリアのまちづくりを目的とした関係団体・機関・個人によるネットワーク組織です。現在は、那覇市若狭公民館・児童館の指定管理者を務めています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、公民館が休館を繰り返す、活動の制限が余儀なくされる中、多様な手段を使って支援情報を届けると同時に、母子家庭や在住外国人などサイレントマイノリティとなりがちの方々に対しても多様な団体と連携した支援に取り組んでいます。また、このような状況でも楽しく有意義に取り組むための様々な工夫を凝らした活動を行っています。</p>	<p>沖縄県那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤 (NPO法人地域サポートわかさ)</p>
—	リモート公民館ひろしま（リモコひろしま）	<p>本年度、広島市公民館職員有志で「リモート公民館ひろしま（リモコひろしま）」を新たに発足しました。これまでの集合対面型の公民館事業を補完するとともに、幅広い学習成果の発信や未利用層へのアプローチにも繋がる新たな事業展開の構築を図るため、リモート活用事業の可能性やノウハウを研究・試行しています。これまでに、オンライン旅行講座、オンラインキッチン、オンラインギャラリー、親子自由研究クラブ、絵本読書会、子育て中の親同志のオンラインしゃべり場等、様々な事業をリモートで展開してきました。相次ぐ公民館まつりの中止を受けて、2020年11月には、「リモート公民館ライブ発表会」として公民館のグループの発表及びリポート中継を市内5公民館が連携しYouTubeでライブ配信しました。</p>	<p>広島市安公民館 社会教育主事 為政 久雄</p>
—	広島県立生涯学習センター「オンライン研修」の試み	<p>広島県立生涯学習センターでは、本年度、新型コロナウイルス感染拡大防止及び実践研究の観点から、試行的に「オンライン研修」を開始しました。年度末までに1,000名を超える市町職員や地域のボランティア・コーディネーターの参加を見込んでいます。この取組は「学びを止めない」「つながり続ける」「学びの選択肢を増やす」観点からも、市町から頼りにされる県センターとしての役割・機能の発信につながりました。今回は、事業開始の経緯を始め、研修の様子、実践を通して培った知見・ノウハウ、オンライン事業で大切にしたい視点、見えてきた成果と課題、今後の方向性等について報告します。</p>	<p>広島県立生涯学習センター 振興課長 松田 愛子</p>

提供事例一覧（グループセッション）

No.	事例(テーマ)	内容	事例提供者
1	東広島まるひネット／学生×地域塾 ～オンラインでの学び・つながりと地域づくりの実践～	<p>合同会社ひとむすびは、東広島を拠点に活動する広島大学の学生たちを中心に構成する組織で、体験スクールや地域情報を発信する「東広島まるひネット」の企画運営を行っています。また、東広島市と連携・協働し、市内の大学生が自ら企画して、地域活動を実践するノウハウを学ぶ「ひがしひろしま学生×地域塾」を実施しています。本年度は「Zoom」を活用し、塾生を対象としたオンライン合宿を実施、自己を見つめ直すワークや、メンバーとのグループディスカッションを通して、自分達でできるプロジェクトを企画し、「3大学の学生連携」「高齢者の孤独解消を目指したラジオ体操動画」等の地域活動を実践しました。</p>	<p>合同会社ひとむすび 岩崎 幸誉</p>
2	まちは教室・ひとは先生！みんなのまちの掲示板『ためまっぷ』 ～ゆるくつながる重層的な社会情報基盤の活用事例～	<p>「みんなのまちの掲示板ためまっぷ」は、住民主体のまちづくりを応援する地域情報共有アプリです。実は、地域で孤立しているのは紙世代よりもスマホ世代です。私たちは、①投稿権限の管理機能で安心 ②チラシを活用した簡単な情報発信 ③半径距離を絞って見つけやすく、の3機能で、明日やろう、今日行こうを誰もができる特許サービスを提供しています。町内会から市民センター、自治体などの単位で運営し、住民満足度は98%、地域参加1.5倍、ターゲット世代リピートユーザー率90%の実績があります。子育て世代は喜び、シニア活動団体も参加が増えて活気が出る多世代多様で重層的な地域を共創しています。今回、コロナ禍で一層深まる地域のつながりの事例も共にご紹介します。</p>	<p>ためま株式会社 代表取締役社長 清水 義弘</p>
3	電話で孤育て家庭をつなげる「まほうのコール」 を通して見えたもの	<p>広島市の市民団体「広島こそだて未来会議」は、新型コロナウイルス感染拡大の中自粛生活が続き、孤独な育児にストレスを感じている家庭が多い状況を少しでも緩和させたいという思いから、「子育て中の知り合いへ近況を尋ねる電話をかけ合おう」との呼び掛けを始めました。「まほうのコール」として、妊婦や自宅で乳幼児の世話をしている知人がいれば、気軽に電話をするように促しています。「どうしてる？」の一言がきっと誰かの救いになり、虐待防止にもつながります。今回は、これらの取組を通して見えてきたこと、感じたことを発表します。</p>	<p>広島こそだて未来会議 津福 彩夏 片元 友紀 浅野 恵美</p>

提供事例一覧（グループセッション）

No.	事例（テーマ）	内容	事例提供者
4	『さいき部』ふるさと佐伯を残したい地元高校生によるICTを利用したつながりづくり	人口減少が進む廿日市市佐伯地域では、地域力の維持や地元県立高校の存続に積極的に取り組んでいます。昨年10月、市民センターの主催事業をきっかけとして、県立佐伯高等学校の生徒と地元の同級生たちにより、「さいき部」が立ち上がりました。津田市民センターでは、「佐伯を自分たちの力で元気にしたい」という高校生の思いに伴走し、若者の力とICTを利用した地域への貢献活動として、動画づくりやスマホ講座のサポートなど、高校生と一緒に行動しています。「さいき部」は、市民センターと地元高校生、地域がお互いに「楽しみ」ながら「学び」、「つながり」佐伯地域の将来を明るく元気にしていくことを目指すプロジェクトです。	廿日市市津田市民センター 主任主事 日比野 稔
5	『人生100年時代』を見据えた高齢者の学びの展開	東広島市では、令和元年策定の「東広島市生涯学習推進計画」に基づき、人生100年時代を見据えた高齢者対象の学習機会の充実に重点的に取り組んでいます。本年度は、これまでの講座に加え、認知症予防、特殊詐欺対策を始め、福祉制度、地域参加、幸せづくりなどの「老い」の特性を学び・備える「東広島熟年マイスター教育講座」を実施しました。また、広島県立生涯学習センターと連携・協働し、「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の一環として、講座のリデザインを始めとした関係職員の研修を実施するなど、職員の企画力・コーディネート力の向上を図ることを通じて、地域センター等を拠点とした高齢者の「学び」や「学びの成果」を生かした地域づくりの活動を進めています。	東広島市教育委員会生涯学習課 課長補佐兼社会教育主事 福永 崇志
6	『せらのまち あちこち図書館』くらしの中に本がある環境づくり	世羅町では、身近なところにいつでも本があり、気軽に本を読むことができる環境づくりを進めています。普段の生活の中にいつでも本がある光景を町中に広げることで、本を通じて「本と人」「人と人」のふれあいが生まれるワクワク楽しいまちになることを願っています。町内には、飲食店や病院の待合室などに本が置いてあり、何気なく本を手にとって読むことができる場所がたくさんあります。「せらのまち あちこち図書館」は、こうした場所の店主等の皆さんの協力を得て、店頭や店内に右のシンボルフラッグを掲示してもらい、町のあちこちに小さな図書館をたくさん創り出す取組です。	世羅町教育委員会社会教育課 課長 釣井 勇壮

提供事例一覧（グループセッション）

No.	事例（テーマ）	内容	事例提供者
7	うちで読もうよプロジェクト電子図書館「With Booksひろしま」・図書セット無料直送	<p>広島県立図書館では、コロナ禍の子供への影響を踏まえ、家庭・学校等を問わず、子供の心のケアや学びを支援するため、図書セットの貸出や電子図書館サービスの提供を行っています。図書セットの貸出は、送料無料で、学校・園・所や放課後児童クラブ等、子供の居場所となるあらゆる施設に直接本を届けます。電子図書館サービスは、ネット環境があればいつでもどこでも貸出料無料で読書ができます。人知れずデリケートな悩みについての本を借りる場合にも適しています。</p>	<p>広島県立図書館 総務課長 友石 泰二</p>
8	人間力育成塾 おのみち100km徒歩の旅	<p>人間力育成塾は、小学校4～6年生の子供たちがふるさと郷土の尾道市内100kmのコースを4泊5日を掛けて歩き抜く活動（おのみち100km徒歩の旅（おの100））を中心とした青少年の人材育成事業です。子供たちは、仲間とともに100km完歩する中で自分自身の内面を鍛え、人との関わりの素晴らしさに気づきます。忍耐力、協調性、積極性、優しさが育まれ、将来への自信にもつながります。子供たちのサポートは事前研修を積んだ学生リーダーが当たります。本年度は、徒歩の旅の活動自体は残念ながら中止しましたが、「第18回人間力育成塾」として、学生リーダーたちによる“感恩報謝の旅”を展開、公民館で子供たちの宿題をサポートする「寺子屋おのみち」の活動等を行いました。</p>	<p>NPOおのみち寺子屋 北原 志織 西川 峻 山田 菜央</p>
9	学校・家庭・地域のつながりで育むみなみっこの未来	<p>府中町では、平成30年度から、すべての学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を導入し、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもの教育に関わることにより学校も地域も子どもも元気になる、「地域とともにある学校」「子どもがきらめき大人が輝く府中の学校」を目指しています。今回は、府中町立府中南小学校コミュニティスクールで取り組んでいる、「南っこサポーター」による、学習支援や家庭教育支援、また、校内の空き教室に有志が手弁当で仕立てた「図書室」や「コミュニティ・ルーム」等の実践を中心に、コーディネーター的役割を担う「事務局」の活動等について報告します。</p>	<p>府中町立府中南小学校コミュニティスクール事務局 石本 智香子 府中町教育委員会社会教育課社会教育主事 幅野 得恵</p>

提供事例一覧（グループセッション）

No.	事例（テーマ）	内容	事例提供者
10	オール重井で協働のまちづくり隊	尾道市重井公民館では、子供や地域住民の公民館への親近感を醸成するとともに、子供たちのコミュニケーション能力や問題発見解決能力、情報活用能力を育成し、自主・協調性を育むことをねらいとして、住民の力を結集したまちづくりを推進しています。その取組の中心となるのが、地元の重井中学校と連携・協働した活動です。重井町民文化祭・重井中学校文化祭や重井中学校公開授業研究会などを協働で実施し、その成果を発信しています。中学校と公民館の持つそれぞれの資源や力を生かし、中学生が主体的に地域のこれからを考える場をデザインすることで、地域の子供たちの自主性や郷土愛を育むことができています。	尾道市重井公民館 館長 小森 健治 尾道市立重井中学校 校長 藤本 弘興
11	おかやま子ども応援事業	平成23年度から始まった「おかやま子ども応援事業」は、地域住民の参画による「地域学校協働本部」、「放課後子供教室」、「家庭教育支援」等の活動を有機的に組み合わせた取組を推進し、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域ぐるみで子供を健やかに育む事業です。10年を迎え、今後は学校運営協議会との一体的な仕組みを推進し、子供や子供を応援する大人たちの笑顔がたくさん生まれるよう、学校を核とした地域づくりを目指していきます。	岡山県教育庁 生涯学習課 副課長 東川 絵葉
12	『ひとが育つまち益田』セカンドステージ 中間支援組織による活性化	島根県益田市では、これまでに、「益田版カタリバ」や「新・職場体験」、「未来ツクルプログラム」など、未来の担い手である子供たちの多様なプログラムを展開してきました。今春、保幼小中高や民間団体・企業等で作る「益田市未来の担い手育成コンソーシアム（共同体）」を設立、さらにこうした動きを加速させるため、一般社団法人「豊かな暮らしラボラトリー（ユタラボ）」をIターンの若者で設立し、中間支援団体として、ひとづくりの起爆剤として動き出しています。今回は、この「ユタラボ」を触媒とした、益田市のひとづくりのセカンドステージについて事例提供します。	島根県益田市 教育委員会 社会教育課 人づくり推進監 大畑 伸幸